

東日本大震災：福島第1原発事故 原発学ぶ「スクールMARIKO」 「福島」自分のことと考えると 今年は15日開講 / 島根 - 毎日新聞



「若い人にぜひ来てほしい」

東日本大震災による東京電力福島第1原発事故を受け、2013年に松江市で始まった「スクールMARIKO」が、今年は15日に開講する。福島の実況について学び、被災者に寄り添おうと松江市在住のミュージシャン、浜田真理子さん(51)が呼びかけた勉強会で、昨年は延べ約400人が参加した。開講を前にインタビューに答えた浜田さんは「熊本地震もあり、いつ支援される側になるかも分からない。自分のこととして考えてほしい」と話す。【谷由美子】

—昨年までの3年間で感じたことは。

◆年を追うごとに、問題が細分化され、複雑になっていると感じる。福島の問題といっても、ひとくくりにはできない。震災や原発事故のとらえ方が、地域によっても違うし、もともとあった都会と田舎の問題とか、家族の中の問題が、震災をきっかけに深刻になっているという面もある。

—スクールの進め方にも影響があった？

◆スタッフ共々、登る山の高さに気が付いた。もともと講師はいろいろな視点からと思って招いているが、昨年は、福島を代表するというより、それぞれが直面している問題について話してもらうようにした。震災から4年たった昨年は、支援も誰に向かってやっているのかが問われる時期でもあった。

—昨年も福島に行った。

◆秋に、震災後に障害者の自立支援施設を始めた人が主催する演奏会に招かれたのがきっかけ。南相馬市では住民がほとんどいない、除染作業中の町を案内してもらった。

また、出演したラジオの公開録音会場になった南相馬の図書館の駐車場にモニタリングポストがあり、現在の放射線量が表示されていた。こういうものと一緒に暮らしていくんだなと思った。

—今年はどうなアプローチをするのか。

◆今の動きと共に、未来に向かってどうするか考えていきたい。例えば、新しいエネルギーについて考えようと、震災後に市民の力でつくられた「会津電力」の副社長を招く。また、国の原発廃炉の人材育成事業の一端に関わっている方も8月に講師を務めてもらう。島根原発だけでなく、日本中に廃炉になる原発があるので、どのように進められるのかが気になる。

初回は毎年、音楽のゲスト。今回はミュージシャンで「原発労働者」(講談社現代新書)の著者でもある寺尾紗穂さんとご一緒する。

—どんな人に参加してほしいか。

◆若い人に来てほしい。これまで福島や原発について考えたことがない人にも。島根には原発があるので、皆が自分のこととして考えてほしいし、私自身も一緒に考えていきたい。熊本地震もあり、私たちはいつ支援する側から支援される側になるかわからない。防災面からも考えるきっかけにしてほしい。

今年の日程とゲスト

「スクールMARIKO」の日程とゲストは次の通り。

第1回(15日)「スクまりはじまりトーク&ライブ」。ミュージシャンの寺尾紗穂さん。▽第2回(6月18日)「南相馬災害FMから島根に伝えたいこと」。今野聡・南相馬ひばりFMチーフディレクター▽第3回(7月23日)「会津電力～エネルギー革命による地域の自立～」。山田純・会津電力副社長▽第4回(8月20日)「廃炉から考える未来」。吉井千周・都城工業高等専門学校准教授▽第5回(9月24日)「スマイル～子供たちへ」。シンガー・ソングライターの堀下さゆりさん。

第1回の会場は「松江市総合文化センター」(プラバホール、同市西津田6)大会議室で午後6時から、料金3000円。第2回以降は「カラコロ工房」(同市殿町)地下大金庫室で午後3時から、料金2000円(学生半額)。問い合わせはNPO法人松江サードプレイス研究会(070・5673・7778)。スクールMARIKOのホームページでも受け付けている。